

## 「歯科診療における静脈内鎮静法ガイドライン第2版」日本語版と英語版との相違点解説

「歯科診療における静脈内鎮静法ガイドライン第2版」の英語版、“Practice Guidelines for Intravenous Conscious Sedation in Dentistry (Second Edition, 2017) Developed By The Japanese Dental Society of Anesthesiology for Dentists Practicing Sedation in Japan”が作成され、本学会の英文機関誌、Anesthesia Progress 65 巻 4 号に only-online version として掲載された(2019.1.31 に Web 公開) (<http://dx.doi.org/10.2344/anpr-65-04-15w>)。

作成した英語版は、原本である日本語版から以下の変更にてスリム化がなされている。

- 1) Clinical question (CQ)形式となっていない「1. 総論・基礎知識」は、大幅に書き換え、Introduction としてまとめ直した。
- 2) 参考文献については、英語名のない文献を削除し、また、CQ ごとに文献番号を振っていた日本語版から、重複を避けるために統一文献番号を新たに振り、文献はガイドラインの末尾にまとめる形式に変更した。
- 3) Evidence 由来でない各 CQ の「解説」を縮小・削除した。

Anesthesia Progress の Editor-in-Chief との discussion にて以下の2文が新たに追加された。日本語版においても追加文を反映させたものを差し替えた。

・ Intravenous sedation with propofol should be performed only by appropriately trained practitioners. (プロポフォールを用いた静脈内鎮静法の施行は十分トレーニングを積んだ歯科医師に限るべきである)

・ Sedation regimens that are intended to induce routine reversal of sedatives are not recommended. (鎮静薬の拮抗をルーチンとする鎮静レジメは推奨されない)

なお、Anesthesia Progress の読者への紹介として、「only-online version の紹介英文(2 ページ)」が Anesthesia Progress 65 : 249-250, 2018 に紙媒体として掲載されている(<http://dx.doi.org/10.2344/anpr-65-04-10>)。

この紹介英文も読んでいただきたい。

2019.2.5

日本歯科麻酔学会

歯科診療における意識下鎮静ガイドラインの英文化策定小部会

部会長 藤澤俊明

部会員 一戸達也、佐野公人、杉村光隆、  
丹羽 均、見崎 徹、山口秀紀